



所長の部屋



今さら聞けない病気の常識 : ⑤ インフルエンザ

京都府南丹保健所長 時田 和彦

日本では毎年、12月頃から翌年の3月頃まで、インフルエンザが流行します。インフルエンザはウイルス感染症で、A型とB型の2種類のウイルスがあります。A型は冬の前半に流行することが多く、発熱や全身倦怠感などが強めなのが特徴です。一方、B型は冬の後半から春先に流行することが多く、症状が少し軽いようです。今回は主にA型について書きます。

A型インフルエンザウイルスの表面には、ヘマグルチニン(Hと略す、ヒトの細胞への接着時に働く)と、ノイラミニダーゼ(Nと略す、ヒトの細胞から離れる際に働く)という2種類の突起が多数あり、ウイルスはHとNの種類から細分類されます。今から100年以上前の1918年、世界中でスペイン風邪が流行し、2,000万人以上が亡くなりました。このときのウイルスはH1N1型でした。1957年にはアジア風邪(H2N2)が、1968年にはホンコン風邪(H3N2)が流行しました。ヒトに流行しているA型インフルエンザウイルスは、これら3種類だけで、2009年の新型インフルエンザは、スペイン風邪と同じH1N1でした。

カモなどの鳥類ではもっと多くの種類が感染していますが、カモは感染しても軽症のようです。ところがその一部が、ニワトリや、ときにはヒトに感染すると、高い致死率の「鳥インフルエンザ」となります。H5N1、H7N9などのウイルスに感染したニワトリと密に接すると、ヒトにも感染することがあり、世界各地から報告されています。幸いにも、これらのウイルスのヒトからヒトへの感染は、今のところほとんどないようです。

インフルエンザは予防が大切で、現在のコロナと同様の対応が有効です。マスクをする、三密を避ける、手洗いをするなどです。コロナ対策が奏功したためか、今年の冬はインフルエンザ患者が激減しています。新型コロナと共に、インフルエンザも予防しましょう。